

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

ミゾカクシ キキョウ科

- ・学名 *Lobelia chinensis*
- ・園内の湿った場所に自生、花期は夏



全国の水田のあぜ、休耕田、用水路、農耕地周辺などの湿り気のあるところに群生する多年草です。溝を覆い隠すほど茂ることが名前の由来といわれています。茎は地を這うように伸び、さらに節から発根してどんどん増えていきます。畔に筵

を敷いたように広がることから、別名をアゼムシ口ともいいます。

ミゾカクシは、夏のあいだじゅう、ほんのり紫色を帯びた白い花をぽつぽつと咲かせます。夏は花をつける植物が少なくなるので、白い花が群生している様はこの暑さの中で涼しさを感じさせてくれます。高さ 10cm くらいの小さな草で、花も幅 1cm 強の小さなものですから、生えていても気づかずに踏んでしまうかもしれません。しかし、しゃがみこんでじっくり見てみると、一度見たら忘れない、なんとも魅力的な形をしていることがわかります。この形が、半分だけのハスの花のようであることから、中国語では「半边蓮」といいます。

ミゾカクシのなかまはキキョウ科に属しますから、花は合弁花で、花弁の根元は筒状につながっています。キキョウ科の多くのグループでは花弁の先のほうがらつに裂けて星形や釣りがね形になりますが、ミゾカクシを含むミゾカクシ亜科では裂

けた花弁が一方に寄る独特の形になります。ミゾカクシ属はラテン語では *Lobelia* (ロベリア) といいます。るり色の花を株一面に咲かせる園芸植物のロベリアは、なるほどミゾカクシの仲間だなと思わせる形の花をつけますが、正式な名前がルリミゾカクシと聞いて、二度納得です。

ミゾカクシは日当たりのよい水辺に生えると名前のおり密生しますが、びわこ文化公園では木陰の湿った場所に生えているせいか、典型的な生態とは違って少しさびしげです。

(龍谷大学農学部・川北暁仁／三浦励一)

- ❁ ミゾカクシは [ここ](#) で見ることができます (クリックで Google マップにリンク。10m程度の誤差が出る場合があります。)